(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-90133
(P2005-90133A)
(43)公開日　平成17年4月7日(2005.4.7)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
E04D 11/00	E04D 11/00	Q	2E001
E04B 1/66	E04B 1/66	A	2E110
E04F 13/08	E04F 13/08	V	

審査請求 未請求　請求項の数 1　OL　（全 4 頁）

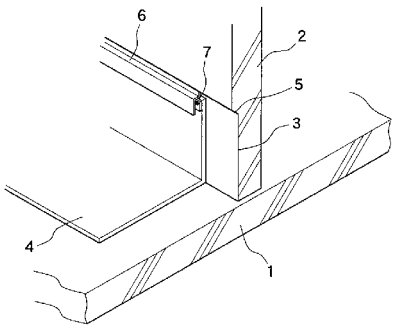
(21)出願番号　特願2003-326532 (P2003-326532)
(22)出願日　平成15年9月18日 (2003.9.18)

(71)出願人　390018717
旭化成建材株式会社
東京都港区東新橋二丁目１２番７号
(72)発明者　福田　泰久
埼玉県川口市戸塚４－１８－１

Fターム(参考)　2E001 DA01 EA01 FA03 FA11 FA16 FA18 FA71 GA12 GA24 HA04 HA07 HF01 HF02 LA01 LA04 MA03 MA04
2E110 AA14 AA41 AB04 BB04 CA23 DC12 DC21 GA24Z GA32W GA32Y GA33Y GA33Z GA44W GA44Y GB01Y GB23Z

(54)【発明の名称】防水構造

(57)【要約】
【課題】スラブから連続する防水層を軽量気泡コンクリート壁パネルの表面で止める防水構造において、施工性にすぐれ、仕上がりの良い防水構造を提供することである。
【解決手段】スラブの上部に配置した軽量気泡コンクリートパネルを壁とし、スラブから連続する防水層を軽量気泡コンクリートパネルの表面で止める防水構造において、軽量気泡コンクリート壁パネルの表面をスラブ面より平行に切削加工し、スラブから連続する防水層をその壁パネルの切削部の頂部まで立ち上げる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
スラブの上部に軽量気泡コンクリートパネルを壁として配置し、スラブから連続する防水層を軽量気泡コンクリートパネルの表面で止める防水構造において、軽量気泡コンクリートパネルの表面をスラブ面からスラブと平行に一定幅で切削加工し、切削加工した部分まで防水層を立ち上げたことを特徴とする防水構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、特に軽量気泡コンクリート壁パネル（以下、ＡＬＣ壁パネルという）にスラブから連続する防水層を該ＡＬＣ壁パネルの表面で止めて行う防水構造に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、ＡＬＣ壁パネルの表面に、床や屋根などのスラブから連続する防水層を形成するには次のような方法がなされている。
第１の従来例は、シート状の防水層をスラブから連続して、ＡＬＣ壁パネル上部で止める方法がある。
第２の従来例として、第１例と同様にスラブから連続したシート状の防水層の頂部を、スラブと平行にＡＬＣ壁パネルの表面に略凹状に切削加工された溝部で止め、略Ｚ状の金物またはシーリング材等で止水する方法がある。（例えば、特許文献１、または非特許文献１、ｐ．４３、解説図３．５参照）
さらに第３の従来例として、スラブと平行にＡＬＣ壁パネルの表面に塗膜防水層を塗布形成して、上部に外装の仕上げ材を施す方法がある。
【０００３】
しかしながら、前述の第１の従来例では、ＡＬＣ壁パネルの下部から上部までＡＬＣ壁パネルの全面にシート状の防水層を施す事になる。
第２の従来例では、使用する略Ｚ状の金物に応じた開口部形状と寸法（幅、深さなど）の溝をＡＬＣ壁パネルにその都度形成しなければならず、標準化しにくいため現場での加工となっている。また、防水層を施したＡＬＣ壁パネルの下部または略Ｚ状の金物の張り出し部が、ＡＬＣ壁パネルの防水層を形成していない上部より前方に出る事になり、凹状の段差部に水が溜まりやすくなるなど性能的にも意匠的にも好ましくない。
また、第３の従来例では、平滑なＡＬＣ壁パネルの表面で、塗膜防水層と外装の仕上げ材層を塗り分ける場合、仕上げ材層または塗膜防水層の凹凸により、塗り分けた線が直線にならず意匠的に好まれないといった問題がある。
【０００４】
【特許文献１】特開２００２－２７６１０７号公報
【非特許文献１】建築工事標準仕様書・同解説（ＪＡＳＳ２１）ＡＬＣパネル工事、日本建築学会、１９８９年改定版
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
本発明は、上記問題点に鑑みてなされたもので、ＡＬＣ壁パネルの表面でシート状の防水層を止める又は防水塗膜を塗布形成する場合において、施工性にすぐれ、仕上がり（防水性能と意匠性）を向上させることができるようにＡＬＣ壁パネルとスラブの接合部に連続する防水層を容易に形成可能な防水構造を提供することである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記課題を解決するために検討の結果、スラブの上部に配置したＡＬＣ壁パネルの表面を、前記スラブ面からスラブと平行に一定の幅で切削加工することが有効な手段であるこ

とを見出し完成したものである。
すなわち、本発明はスラブの上部に軽量気泡コンクリートパネルを壁として配置し、そのスラブから連続する防水層をＡＬＣパネルの表面で止める防水構造において、ＡＬＣパネルの表面をスラブ面よりスラブと平行に一定幅で切削加工し、切削加工した部分まで防水層を立ち上げたことを特徴とする防水構造である。
【発明の効果】
【０００７】
本発明は、防水シートや金属板状の防水層の場合、立ち上げた防水層の上部を切削部の頂部で押さえ、シーリング材のみまたは略Ｚ状の金物とシーリング材とで簡単に止水する場合に、切削部が溝でなく、パネルをスラブ面から一定幅で平行に切削加工しているため、略Ｚ状の金物は、寸法や形状にあまり囚われずに市販のものが使用でき、ＡＬＣ壁パネルの切削加工も予め工場で行うことが容易になる。
塗膜防水層の場合は、塗膜防水層を切削部の頂部まで立ち上げその上より外装の仕上げ材とするだけで直線的に塗膜防水層を仕上げることができる。また、立ち上げた防水層の上端部分に比較的水が溜まり難く、性能的にも意匠的に好まれる入り巾木状とすることができる。
【発明を実施するための最良の形態】
【０００８】
本発明の実施形態を図１により具体的に説明する。図１は、本発明の第１の実施例に係る防水構造の斜視図を示す。
図１を使用し、スラブから連続するシート状の防水層をＡＬＣ壁パネルの表面で止める防水構造について説明する。図１に示す本発明の第１の実施例において鉄筋コンクリートからなる床面または屋根面などのスラブ１の上部にＡＬＣ壁パネル２を配置する。このＡＬＣ壁パネル２の表側の下部は、スラブ１と平行で深さ約１５ｍｍ、幅約１５０ｍｍの切削部３を予め加工している。そして、スラブ１より連続するシート状の防水層４を切削部３で止め、接着剤やビス７等で押さえる。その上で切削部３の入り隅５をシーリング材等で処理する事により、シート状の防水層４の止水と仕上げが完了する。ここで、防水層４の頂部を略Ｚ状の水切り６で押さえ、形成された溝をシーリング処理することも出来る。
【０００９】
次に第２の実施例として、シート状の防水層に代って、スラブから連続する塗膜防水層を用いた防水構造について図１を参考にして説明する。第１の実施例と同様にスラブ１の上部にＡＬＣ壁パネル２を配置し、ＡＬＣ壁パネルの表面の下部には予め切削部３を加工している。そして、スラブ１より連続して塗膜防水層を切削部３まで塗布し、切削部３の頂部より上は外装の仕上げ材を施す。これにより、止水と仕上げが完了する。
【００１０】
ここで、ＡＬＣ壁パネル２は一般的な３５ｍｍ～２００ｍｍの厚さのパネルを用いる事ができ、その切削部３はＡＬＣ壁パネル２の構造的に安全である範囲であれば深さや幅の制約は特にないが、標準的には深さは５～２５ｍｍ、幅は５０～６００ｍｍ程度である。
また、切削部３の頂部の入り隅５の断面形状は、直角でも斜めになっていてもよい。さらに、防水層４は、シート状（第１の実施例）または塗膜状（第２の実施例）の他に、一般的な防水層とすることが出来る。
【産業上の利用可能性】
【００１１】
本発明は、鉄筋コンクリートからなる床面または屋根面などのスラブの上部にＡＬＣ壁パネルを配置した場合の防水構造として好適に利用できる。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】本発明の第１の実施例に係る防水構造の斜視図である。
【符号の説明】
【００１３】

1　・・・　スラブ
2　・・・　ＡＬＣ壁パネル
3　・・・　切削部
4　・・・　防水層
5　・・・　入り隅
6　・・・　水切り
7　・・・　ビス

【図１】

